



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月5日

上場会社名 世紀東急工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 1898 URL <https://www.seikitokyu.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平 喜一  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員財務部長 (氏名) 川野 隆紀 TEL 03-6770-4020  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	69,848	△5.2	4,513	9.5	4,364	6.7	2,987	9.5
	73,715	13.7	4,119	49.3	4,092	50.1	2,727	34.3

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 3,031百万円( 12.3%) 2025年3月期第3四半期 2,700百万円( 28.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 81.56	円 銭 —
2025年3月期第3四半期	74.73	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2026年3月期第3四半期	百万円 82,104	百万円 41,805	% 50.9	円 銭 1,141.22
2025年3月期	82,556	41,692	50.5	1,138.86

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 41,805百万円 2025年3月期 41,692百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 45.00	円 銭 —	円 銭 45.00	円 銭 90.00
2026年3月期	—	35.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
通期	百万円 101,300	% 2.0	百万円 6,600	% 13.0	百万円 6,400	% 10.6	百万円 4,600	% 18.3	円 銭 125.57	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	37,424,507株	2025年3月期	37,424,507株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	792,243株	2025年3月期	815,440株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	36,623,046株	2025年3月期3Q	36,492,283株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有（任意）

監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、様々な不確定要素が内在しているため、実際の業績等は予想数値と異なる可能性があります。業績予想につきましては、添付資料2ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧下さい。

(参考) 2026年3月期の個別業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	95,700	1.3	5,800	11.7	4,200	20.4	114.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、様々な不確定要素が内在しているため、実際の業績等は予想数値と異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書 .....	5
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
3. 補足情報 .....	8
四半期個別受注の概況 .....	8
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、緩やかな回復基調を辿りましたが、一方では、米国の政策動向への懸念や物価上昇の継続などにより、先行き不透明感が高まる状況となりました。

道路建設業界におきましては、建設投資は総じて堅調さを維持しているものの、原材料価格が依然として高値圏で推移するなど、予断を許さない事業環境となりました。

このような情勢のもと、当社グループでは、『2030年のるべき姿』を示す長期ビジョンおよび現行の「中期経営計画（2024-2026年度）」に基づき、事業基盤のさらなる強靭化に努めるとともに、社会課題解決に貢献するサステナブル経営の推進にも注力してまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、受注高（製品売上高およびその他の売上高を含む）は72,677百万円（前年同期比0.3%増）、売上高は69,848百万円（前年同期比5.2%減）となりました。

損益面につきましては、経常利益は4,364百万円（前年同期比6.7%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,987百万円（前年同期比9.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、完工工事高、売上高および営業利益については、セグメント間の内部取引高等を含めた調整前の金額をそれぞれ記載しております。

#### 「建設事業」

建設事業につきましては、受注高は57,164百万円（前年同期比1.8%減）となり、また、大型工事の進捗遅れの影響などにより、完工工事高は54,335百万円（前年同期比8.7%減）、営業利益は4,990百万円（前年同期比12.2%減）となりました。

#### 「舗装資材製造販売事業」

舗装資材製造販売事業につきましては、製品売上高は25,091百万円（前年同期比1.6%減）となりましたが、製造コスト上昇分の販売価格への転嫁が進展したことなどにより、営業利益は2,278百万円（前年同期比89.7%増）となりました。

#### 「その他」

当社グループでは、自動車等のリース事業や売電事業などを営んでおり、その他の売上高は776百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は171百万円（前年同期比33.8%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比較し451百万円減少の82,104百万円となりました。現金預金が増加する一方、売上債権が減少したことなどにより流動資産は101百万円の減少となり、また、投資その他の資産が減少したことなどにより固定資産は349百万円の減少となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比較し564百万円減少の40,299百万円となりました。前連結会計年度末において流動負債に含まれていた1年以内に返済期日を迎える長期借入金5,000百万円全額について借換を行ったことなどにより、流動負債は5,596百万円の減少、固定負債は5,032百万円の増加となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、配当金の支払いがあったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益2,987百万円を計上したことなどにより、前連結会計年度末と比較し112百万円増加の41,805百万円となりました。この結果、自己資本比率は50.9%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年11月6日公表時から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金預金	7,751	14,125
受取手形・完成工事未収入金等	40,571	34,169
未成工事支出金	75	183
材料貯蔵品	344	365
その他	2,489	2,289
貸倒引当金	-	△1
流动資産合計	51,233	51,131
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	13,334	13,256
機械、運搬具及び工具器具備品	23,531	23,948
土地	14,744	14,762
建設仮勘定	1	225
減価償却累計額	△25,679	△26,395
有形固定資産合計	25,932	25,798
無形固定資産	269	271
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	3,631	3,727
その他	1,489	1,176
投資その他の資産合計	5,120	4,903
固定資産合計	31,322	30,972
資産合計	82,556	82,104

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形・工事未払金等	23,359	23,251
短期借入金	5,106	202
未払法人税等	1,354	80
未成工事受入金	797	1,287
完成工事補償引当金	127	45
工事損失引当金	28	25
賞与引当金	1,613	886
その他	4,269	5,281
<b>流動負債合計</b>	<b>36,656</b>	<b>31,059</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,600	6,525
退職給付に係る負債	2,525	2,632
その他	81	81
<b>固定負債合計</b>	<b>4,207</b>	<b>9,239</b>
<b>負債合計</b>	<b>40,863</b>	<b>40,299</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>	<b>2,000</b>	<b>2,000</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>623</b>	<b>639</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>38,421</b>	<b>38,455</b>
<b>自己株式</b>	<b>△671</b>	<b>△652</b>
<b>株主資本合計</b>	<b>40,373</b>	<b>40,441</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>137</b>	<b>210</b>
<b>為替換算調整勘定</b>	<b>△38</b>	<b>△19</b>
<b>退職給付に係る調整累計額</b>	<b>1,220</b>	<b>1,172</b>
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>1,319</b>	<b>1,363</b>
<b>純資産合計</b>	<b>41,692</b>	<b>41,805</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>82,556</b>	<b>82,104</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	73,715	69,848
売上原価	64,959	60,639
売上総利益	8,756	9,209
販売費及び一般管理費	4,636	4,695
営業利益	4,119	4,513
営業外収益		
受取利息	1	11
受取配当金	6	12
受取貸料	15	15
為替差益	39	7
雑収入	18	19
営業外収益合計	80	66
営業外費用		
支払利息	46	65
支払保証料	23	18
シンジケートローン組成費用	21	118
雑支出	16	13
営業外費用合計	108	214
経常利益	4,092	4,364
特別利益		
固定資産売却益	8	2
特別利益合計	8	2
特別損失		
固定資産売却損	2	-
固定資産除却損	48	33
減損損失	1	-
特別損失合計	51	33
税金等調整前四半期純利益	4,048	4,333
法人税等	1,321	1,346
四半期純利益	2,727	2,987
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,727	2,987

## 四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	2,727	2,987
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	73
為替換算調整勘定	△25	19
退職給付に係る調整額	△20	△48
その他の包括利益合計	△26	44
四半期包括利益	2,700	3,031
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,700	3,031
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	舗装資材 製造販売 事業	計			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	59,525	14,119	73,644	70	—	73,715
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	11,378	11,378	665	△12,044	—
計	59,525	25,497	85,023	736	△12,044	73,715
セグメント利益	5,682	1,201	6,884	128	△2,892	4,119

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、売電事業等を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益の調整額の主なものは、各事業セグメントに帰属しない本社管理部門等の一般管理費△2,882百万円であります。

(注) 3 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	舗装資材 製造販売 事業	計			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	54,335	15,408	69,744	104	—	69,848
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	9,683	9,683	672	△10,355	—
計	54,335	25,091	79,427	776	△10,355	69,848
セグメント利益	4,990	2,278	7,269	171	△2,927	4,513

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、売電事業等を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益の調整額の主なものは、各事業セグメントに帰属しない本社管理部門等の一般管理費△2,917百万円であります。

(注) 3 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,509百万円	1,411百万円
のれんの償却額	—	33

## 3. 换算情報

## 四半期個別受注の概況

## 個別受注の実績

		受注高	
2026年3月期第3四半期		68,574百万円	△0.3%
2025年3月期第3四半期		68,802百万円	△2.8%

(注) ①受注高は、当該四半期までの累計額

②パーセント表示は、対前年同四半期比較増減率

## 受注実績の内訳

(単位：百万円)

受注高	区分	前第3四半期 (2025年3月期 第3四半期)		当第3四半期 (2026年3月期 第3四半期)		増減		前期 (2025年3月期)	
		金額	構成 比率%	金額	構成 比率%	金額	増減率 %	金額	構成 比率%
建設部門	国内官公庁	19,279	28.0	16,034	23.4	△3,245	△16.8	25,482	28.3
	国内民間	35,006	50.9	36,873	53.8	1,866	5.3	45,095	50.1
	計	54,286	78.9	52,907	77.2	△1,378	△2.5	70,577	78.4
	製品部門等	14,516	21.1	15,666	22.8	1,150	7.9	19,393	21.6
	合計	68,802	100.0	68,574	100.0	△228	△0.3	89,971	100.0

## 独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月5日

世紀東急工業株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 中川政人

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 中村 崇

### 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている世紀東急工業株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 繼続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。